

近畿ろうきんのみなさま

2011年、東日本大震災直後の「募金プロジェクト」に続き、2012年より「サポートV」として毎年多額のご寄付をいただき、心より感謝申し上げます。

震災から8年が経ち、報道も減る中、被災地の人々はいつも「私たちのことを忘れないで」とおっしゃいます。近畿ろうきんのみなさまが、毎年ご寄付を寄せてくださることで、「忘れない」という思いが被災地に伝わっています。このことがどれほど心に灯がとまり、勇気と力が湧いてくることか、はかり知れません。

さて、2018年には530万円のご寄付をいただき、ありがとうございます。貴重なそのご寄付は、下記の3ヶ所に贈呈いたしました。

11月28日	1,000,000円	NPO法人ふよう土2100（福島県郡山市） 事業所改修工事費用。
12月21日	1,592,000円	NPO法人輝き サロンどじょう（福島県双葉郡川内村） 事業所改修工事費用。
2019年 3月5日	2,708,000円	NPO法人によつきり（宮城県石巻市） ヘルパー派遣事業所開設準備費用、及び運営費用。

☆ 2012年から2018年にいただきました支援金（総額6,635万円）は、延べ19か所の障がい者拠点の建設、活動に役立てさせていただきました。それぞれの建物に「近畿ろうきん」プレートが貼られています。

この建物は

近畿ろうきん

近畿推進会議 による

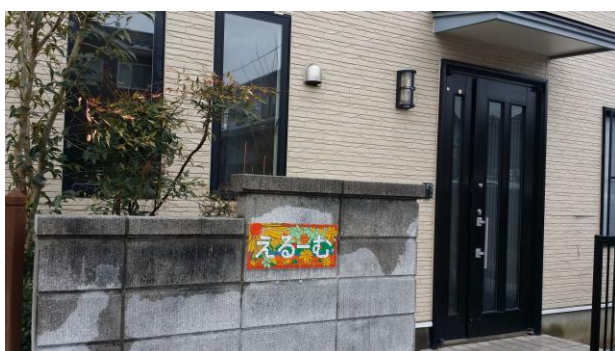
東日本大震災復興支援定期預金「サポートV」
の寄付金協力を受けて建設されました

認定NPO法人 ゆめ風基金 

<2018年度の支援内容 事業所改修工事2ヶ所、事業所開設準備費用1ヶ所>

1. NPO法人ふよう土2100（福島県郡山市）

この団体は福島県郡山市を拠点とし、当初は被災障がい者とその家族のためのサポート事業を行う団体として2011年に設立されました。現在は放課後デイサービス「がっこ」、多機能型事業所「えるーむ（児童発達支援事業、放課後等デイサービス）」、「交流サロンひかり」、相談支援事業所「ひかり相談室」など多様な事業を展開しています。



2017年、「被災地では障がい者家族の悩みが多岐に渡り、行政サービス以外で気軽に相談できる場所、情報を共有できるコミュニティスペースの必要性がある」と感じ、「コミュニティ mano a mano」を開設しようと物件を借りたものの、かなり不便な物件だったため、障がい者が利用するための改装を行う費用が必要ということで、その改修工事費用の一部として100万円を支援しました。



- 福島県原発被害による被害は目に見えないだけに深刻です。浪江町などはすでに避難指示解除が出ていて、復興住宅も建ってはいますが、商店などが戻ってきておらず買い物すらできない状態です。次々と削られている復興予算が被災地に及ぼす影響も心配です。

2. NPO法人輝き「サロンどじょう」(福島県双葉郡川内村)

NPO法人輝きが運営する障がい者の働く場「サロンどじょう」は、2013年6月に開所しました。福島第一原発の事故により全村避難となりましたが、2012年1月31日に帰村宣言が行われました。

全村避難により、これまで障がい者が通っていた施設がなくなり、帰村しても障がい者の集まる場がなくなってしまいました。そこで、有志が障がい者の集まる場を作ろうと、当初は復興予算の避難者支援の制度を利用してサロンのような場所を完成させました。しかし、その予算も打ち切られてしまい、「サロンどじょう」は「障害者地域活動支援センター」として村に認めてもらう中で、再スタートを図りました。ところが、村は『地域活動支援センターは村の単独予算となるため認められない。国の制度である就労継続B型の事業所をめざしてほしい』としました。国の制度を利用するとなると職員の資格や建物基準などについてハードルが上がる事になりましたが、何とか2018年6月にその基準をクリアして新たな活動場所として再スタートをきることができました。

今回は、その事業所の改修工事費用として、約159万円を支援しました。

3. NPO法人障がい者ベース石巻によっきり/元被災地障がい者センター石巻(宮城県石巻市)

東日本大震災以降、「被災地障がい者センター石巻」は、被災地の困りごとが相談できたり、障がい者福祉の充実を訴えたり、障がい者とその家族が集い悩みを分かち合える場として、8年間活動を続けてきました。その間、大阪の仲間と交流を続け、大阪の障がい者たちが生き生きと地域で暮らしているのを見て、石巻でも当たり前のように地域で生きたい、と強く願うようになりました。しか

し、それには圧倒的に介助者が不足していると考え、ヘルパーを派遣する事業を始めようと準備しています。

今回、誰もが暮らしやすい「石巻」にしたい、そのために、拠点や地盤を強固にしていく費用として、約 270 万円を支援しました。（「によつきり」とは、『街も僕らもこれからによつきり伸びていく』という意味が込められています。）

震災から 8 年が過ぎ、当時こどもだった障がい児は学校を卒業したものの、就職先がなく困っています。将来的には、作業所なども作ろうと考えています。



しゃべり場「によき亭」に集まった人たち。



● 「サポートV」のおかげで、また新たな障がい者の拠点ができました。

「障がい者の地域拠点」というものは、雨風をしのぎ、みんなが集える建物であるだけでなく、生活、いのち、人権をまもり、支える砦です。そのような地域の場所が障がい者にとって本当に命綱です。特に、大阪のような大都市と比較して、地方はまだまだ障がい者が地域で当たり前暮らしていくのには、多くのハードルがあります。

福島の被災地では、時間とともに新たな課題が浮き彫りになってきます。NPO法人ふよう土 2100 やNPO法人輝き「サロンどじょう」のケースのように、被災障がい者の多岐にわたる悩みに対応できる施設、原発避難者の帰村後に障がい者が気軽に相談・交流できるコミュニティ施設などが必要となり、新たな障がい者の拠点ができました。

また宮城では、NPO法人障がい者ベース石巻のケースのように、介護者の養成や運営基盤の強化を図っていくことで、日々の生活を支えになると同時に、いざというときの地域の救援拠点にしていくといった、これからの見据えた拠点づくりを展望することができました。

東北の復興には、まだまだ時間がかかります。長くご支援いただいているみなさまのお気持ちに心から感謝するとともに、今後もよろしく願い申し上げます。

以上